使用した放射線測定器と測定方法

≪2011.11.27まで≫

●測定器

ALOKA **PDR-101**

●測定方法

測定器に表示された数値を**10秒間隔**で**10回**読み取り、その平均値を算出し、そのポイントでの測定値とした。

≪2012.1.14以降≫

●測定器

ALOKA **TCS-172B**

●測定方法

測定器に表示された数値を**30秒間隔**で**3回**読み取り、その平均値を算出し、そのポイントでの測定値とした。

単位・川崎市の放射線量(空中)の基準

●シーベルト(sv)

私たちが放射線を浴びたとき、どれくらいの被害を受けるかを表す単位。1 sv=1000ミリsv=1000000マイクロsv。

異なる種類の放射線(アルファ線・ベータ線・ガンマ線・中性子線など)を浴びた場合でも、生態が受ける被害の程度を共通に表現できるような単位として考案された。

●川崎市の対応基準(公共施設)川崎市HPより

(1) 0.19μSv/hを超え0.38μSv/h以下の場合

天地返し、洗浄など現地で放射線量の低減化を実施

(2) 0.38μSv/hを超え1μSv/h未満の場合

速やかに線源を除去し、除去した物質は安全に保管

(3) 1μSv/h以上の場合

速やかにシートによる飛散防止や立入禁止措置等を図り、線源の除去、安全に保管した上で核種分析を実施

●日本共産党川崎市議団

放射線測定の結果をもとに、川崎市長に申し入れ

日本共産党川崎市議団は、昨年3月18日の「緊急申し入れ」をはじめ8回にわたり、震災や放射線にかかわる問題について川崎市に申し入れを行ってきました。

(申し入れの詳細は市議団HPへ)

写真：7月27日に行った申し入れの様子

▼2011年

①3月18日 被災者の救援、市内放射線量の正確な情報提供、計画停電への対応など

②3月23日 福島第一原発への緊急消防援助隊の派遣、福島からの避難の長期化への対応など

③3月29日 原発事故による放射性物質の正確な情報提供、最悪の事態を想定した川崎市民の安全対策を

④7月27日 放射線量調査と市民への情報公開、放射線量が高い箇所の線量を下げる対策、市民の不安を解消する対策など

⑤8月19日 市内ホットスポットへの対策、市民、特に子どもの安全・健康のために体制の強化を

⑥10月25日 子どもの生活の場を中心に市は放射線測定を、団体・市民に放射線測定器貸出しを

▼2012年

⑦2月15日 文科省『放射線副読本』について、配布しないこと、授業で使用しないこと、国に副読本の内容の改定を求めることなど

⑧3月29日 災害がれきの広域処理にあたって、市民への説明と合意、万全の安全対策とともに、政府へ責任ある対応求める要請を